宇宙生命哲学 ことはじめ

69

北里環境科学センター
名誉顧問／宇宙生命哲学者
伊藤　俊洋

内モンゴルでの医療体験

2024年8月末、5年ぶりに内蒙古自治区を訪れた。内蒙古は、日本のおおよそ3倍の面積（約120万㎢平方㎞）を有し、2023年の人口は2396万人（前年から5万人減）で、そのうち80%が漢民族である。モンゴル族は400万人であるが、その人口はモンゴル国のモンゴル人よりも多いという。歴史的に騎馬民族が活躍し、現在も牧畜が盛んで、内蒙古の経済状態は、中国全体の中で上位に位置している。成田―上海―フフホトのルートで標高2000㍍の高原の街に降り立つと、予想通り、日本の亜熱帯状態の蒸し暑さは微塵もなく、涼風を全身で楽しむことができた。フフホトの街は道路が広く、並木の手入れも行き届いていて、大気汚染も感じられず、以前は気になった警笛音も街中ではほとんど聞くことがなかった。

今回は、友人のお嬢さんの結婚式に参列するための渡航であったが、私は、2日目にコロナを発症し、目的の結婚式には出られなかった。友人達の手配で、3日目の朝、内蒙古国際蒙医医院の感染性疾病科を受診し、血液検査、心電図、CT検査、COVID―19抗原検査、PCR検査、内診と、至れり尽くせりの診療を受けた。この施設は、パンデミックの時に急遽建設されたもので、連日多くの患者さんがひしめき合っていたことが偲ばれたが、その日は、私一人のために医師、看護師、検査技師の方々が世話をして下さった。何と贅沢なことか。

筆者が受診した内蒙古国際蒙医医院

友人は、食品栄養学の専門家で、内蒙古特産の家畜である羊の尻尾から得られる油脂研究の第一人者である。長年、日本の大学で研鑽を重ね、現在は内蒙古農業大学で研究と教育にあたっておられる。その研究は当地で高い評価を受けており、彼女の研究を紹介する映画の制作が行われている。体調が回復した私は、帰国前日に、「食品栄養学」と「宇宙生命哲学」に関する4時間に及ぶ取材を彼女と共に地元のメディアから受けることになった。

新郎新婦は、新婦側のモンゴル族の伝統的な結婚式の後、新郎側の漢民族の結婚式を行い、今月、アメリカ国籍を持つ新郎と共にアメリカに旅立つという。世界は、戦争や紛争で混乱を重ねているが、心の持ちようで国境や民族の壁を越えた交流ができる筈である。地球は一つ、人類は皆兄弟という「地球人」の概念を広めることが、世界を平和に導く最短の道ではないかと思っている。